

題 言

→宣傳せざるものは滅びるか←

總べてが宣傳の世の中になつた。歐洲大戰以來國際的に盛んになつた宣傳政策が今や國內に於ても在ゆる方面に利用されるに至つた。我々の社會生活は今や四方八方から宣傳攻めに遭つてをる有様である。宣傳するものは榮へ、宣傳せざるものは滅びるを見るのが今日の社會相である。宣傳が巧妙になるに輿論を喚起する。輿論は社會の大勢力になる。大勢力になるにせよ、必ずしも正當なる民意の代表でない事がある。世界の歴史相は此の誤りたる宣傳の爲めに數々人類の幸福を妨げてをる。現に國內に於ても不良宣傳の爲めに正當なる重要事業が幾つか後廻しにされて然も國民は之を氣付ずに居るのである。技術家が立案する處の國家百年の大計なるものが常に政黨政治家に依りてタライもなく葬り去らるるは其の宣傳が足りないからである。然し宣傳が足りないに云ふ事を一面から考へるに其仕事に對する眞劍味が足りないに云ふ事にもなる。若し眞に世界の氣勢に國民の實生活に立脚したる眞實眞劍の案であるならば如何なる不良宣傳にも壓倒さるゝ筈はない、堂々として技術立國の旗を押立てゝ進み得るのである。人は眞劍に生き眞實に死す、千變萬化世相極りなしに雖も、結局人を動かすべき力は唯眞實あるのみである。眞實の生命に立脚したる宣傳は一種の宗教である。尊き人生の信仰である。